

岩尾別川流域における事業進捗について

斜里町
公益財団法人 知床財団

斜里町では、1997年より「100平方メートル運動の森・トラスト」による事業として、幌別・岩尾別地区の森と生物相の復元に取り組んでいる。岩尾別川周辺は、かつてはカツラなどで構成される豊かな河畔林を形成していたが、1981年（昭和56年）の大水害や、その後急増したシカの強い影響などで衰退し、河川そのものの環境も含めた改善が必要とされている。

2011年度より5カ年計画で、岩尾別川流域の自然環境改善を目的とした「カツラの森、命あふれる川の復元事業」（ダイキン工業支援）を行っている。川と遡河性魚類を通じた海域と陸域の物質循環は知床世界自然遺産の特徴の一つであるため、サケマス其自然産卵やオショロコマの資源量拡大を本事業の重要課題と位置付け、サケマスの自然再生産復元など既存事業の拡充も含めた取り組みを行うものである。2012年度より具体的な河川内での作業を開始している。

同年、北見管内さけ・ます増殖事業協会では、岩尾別ふ化場施設の改修工事、および岩尾別川に設置している取水口周辺の河川環境整備を行った。これらはルシャふ化場を撤去し、その機能を岩尾別ふ化場に統合するための整備である。取水口周辺の整備は、ふ化施設で必要不可欠な河川水をより安定的に確保することを主目的としつつ、合わせてサケ科魚類の自然産卵環境の回復も視野に、河川の環境改善を図るものである。

これらの取り組みは、同河川の魚類の生息・産卵環境改善のため、必要最小限の人為的な介入を行うものである。そのため、作業を行うことで意図に反して河川環境を悪化させたり破壊したりすることのないよう、専門家から十分意見聴取を行った上で計画を立案するとともに、作業後の遷移をモニタリングしながら、必要に応じて手直しを行うこととする。

斜里町と北見管内さけ・ます増殖事業協会は、「100平方メートル運動の森・トラスト」の生物相復元事業について、これまでも連携・協力した取り組みを行ってきたこと、また、今回の事業についても、実施場所や時期、その他工法について重複または共通する部分が多いことから、両事業を連携して進めている。

【事業概要】

実施主体	実施場所	河川内での主な作業	その他関連作業
斜里町	岩尾別川本流（赤イ川分岐付近からピリカベツ川分岐付近まで約1.5km区間）	自然石の配置による瀬や淵の形成、および河道修正 過去に造成された土手の解消など	防鹿柵設置による河畔林の育成等
北見管内さけ・ます増殖事業協会	岩尾別川本流（赤イ川分岐付近から下流側約1km区間）	自然石の配置による瀬や淵の形成、および河道修正 （取水口周辺に水が滞留するよう配慮）	岩尾別ふ化場施設の増改築 （ルシャふ化場は解体・撤去）

1. 事業実施の経緯

同事業実施の経緯を語る上で、現場となる岩尾別川流域の自然環境の変遷について触れることは不可欠なことから、ターニングポイントとなる昭和 56 年水害（1981 年）前後の航空写真及び現在の写真を用いて、その概要を説明する。

戦前から戦後にかけて行われていた幌別岩尾別地区での開拓は、1970 年代前半までにすべての入植者は離農し終了を迎えている。その後は、「しれとこ 100 平方メートル運動」（1977 年～）などの取り組みによって、人為的かつ大規模な土地開発は行われていない。

しかし、そのように守られた岩尾別川流域の自然環境は、1981 年（昭和 56 年）の大水害によって河畔林が喪失するなど、その姿は大きく変貌した。また、この水害後は、防災上の観点から河道を直線化するなどの人為的な河川整備も行われてきた。

2011 年、ダイキン工業株式会社から 5 カ年計画で大きな支援を受けられることになったことから、同事業では、これまで継続して実施されている「100 平方メートル運動」の森林再生の一環として、さらなる河畔林の復元に取り組む他、これまで懸案だった河川自体の環境改善の取り組みにも新たに着手することとなった。河川の環境改善の取り組みについては、魚類の産卵・生息環境改善他、造成された土手など人為的に改変された部分についても可能な限り解消していくことも視野に入れている。



開拓終了から数年後の流域の様子。



水害から 2 年後の様子。流域の河畔林が喪失し、河道があらわになっている。



現在の様子。河畔林の回復は見受けられるものの、近年はシカの影響を顕著に受けている状態である。河川については、河道整備が行われて以降、自然の推移に委ねられ特に手は加えられていない。

2. 事業全体の年次計画

年度	斜里町 (100 平方メートル運動の森・トラスト)	北見管内さけ・ます増殖事業協会 (岩尾別ふ化場)
2011 (実施済)	現状調査・作業候補地選定 河畔林防鹿柵の設置等 各関係機関・団体（環境省・漁協・ 河川工作物 AP 等）への計画説明	現状調査・作業候補地選定 設計図面等作成 各関係機関・団体（環境省・町・河川工作物 A P 等）への計画説明 許可申請手続き
2012	許可申請 → 許可済 河川環境改善作業 → 実施済 河畔林防鹿柵の設置等 → 実施中	岩尾別ふ化場施設増改築工事（ルシヤふ化場の 解体・撤去） → 実施済 取水口周辺中心に河川環境改良 → 実施済
2013 ～2015	河川環境改善作業を順次実施 前年作業の振り返り・手直し 河畔林防鹿柵の設置等	

それぞれの作業については、コンクリートなどの人工物による改変や、遠地から材料等を持ち込むのではなく、岩尾別川河畔の自然石等を河道内に配置するなど、その場の自然物を利用した工法を用いることとする。改良箇所は翌年再度確認を行い、当初の意図と反した結果であった場合は必要に応じて手直し作業を行う。

また、作業は、下流部から上流に向かって順次行っていく。また、作業実施後についても、大雨や融雪期の増水によって河川は絶えず変化していくことから、必ず前年（またはそれ以前）の作業結果を検証し、必要な手直しを行う。なお、作業実施にあたっては、環境省等関係行政機関及び地元漁業関係者、また、知床世界自然遺産科学委員会（河川工作物 AP）等との協議・合意形成を図りながら進めていく。

3. 2012 年度の事業結果

■斜里町担当分

2012 年度は、別紙「区画 3-G」地点にて「サケマス産卵環境改善」及び「河道の修正」を目的として作業を行った。また、増水時等によって地形が変化した場合の数値的なデータを得ることを目的として水位計を設置した。

◆作業実施日：2012 年 7 月 12 日～13 日

◆使用重機：バックホー（0.7 m³）1 台



岩石等配置後の様子（2012年7月13日）



左写真と同地点の作業前の様子（2012年7月10日）



作業時の様子。周辺の岩石を集め使用した。



設置した水位計（塩ビ管の中に水位計をセット）

■北見管内さけ・ます増殖事業協会担当分

岩尾別ふ化場施設の改修工事および岩尾別川に設置している取水口周辺等の河川環境整備（「区画1-A～C」および「区画2-D, E」、「区画3-F」を実施した。作業は6～8月に実施され、すでに完了している。



作業後の取水口周辺の様子（「区画1-C」）。



作業後の取水口周辺の様子（「区画3-F」）。